

アートで手をつなぎ、 富山に新しい価値を。

いまの笑顔が未来へ。

かつてスキーのアルペンレーサーとして世界各国をめぐり、海外の美意識に触れる機会が多くありました。そこで受けた刺激を具現化するために、ふるさとの緑豊かな大山地域に住居とアートのスペースを構え、空間のデザインやアートのプロデューサー、アーティスト、企業コンサルタントとして活動しています。また、これまでの経験を生かし、富山のまちづくりのお手伝いをしています。

毎年夏に開催される「LIVING ART IN TOYAMA」は、今年で17回目。コンテンツのひとつとして、木や竹など地元の素材を使って、ものづくりを体験するワークショップを開いています。美術館で観るものだけがアートではなく、身近にある素材を使って愛する人のためにもものを作ることもアートです。それは、きっと一人一人が創造的に生きていく術となるのではないのでしょうか。実際にアートに触れる子どもたちの表情がすごくいいんです。身近なアートを通して街に笑顔をあふれさせることが、



▲稲荷公園フリーアートキャンパス



貫場幸英さん

▲参加者が制作したキャンパスの前で

子どもたちの豊かな未来につながると
思っています。

時間をデザインする。

昨年10月から富山市が取り組む「稲荷公園フリーアートキャンパス」にも携わっています。誰もが自由に絵を描ける大きなキャンパスを設置することで、創作の楽しさを感じてもらい、にぎわいを生み出していこうというものです。

キックオフイベントでは、富山大学芸術文化学部の学生たちと地元の子どもたちが一緒に絵を描きました。創作の楽しさを共有できる時間は子どもたちにとって、宝物だと思うんですね。“宝物のような時間”を重ねていくことで、街の至るところにアートが広がっていくと思います。

人と人が手をつなぐ街へ。

学生の創作の場を行政が支援し、それに企業も参加して、みんなでアートに触れる機会を増やしていく。大学、行政、企業が一つになることで、まちづくりのネットワークが広がります。まちが元気になり、ボーダーレスに手をつなぐシーンが増えていけば、新しい文化の創出に結びついていくことでしょう。

もっと、人と人が手をつなぐ街にしていきたい。そうすれば海外から訪れる人にも魅力的に映るはず。アートで人をつなぎ、次世代のものづくりに新しい価値を生み出すことで、日本のみならず、世界の光になれるようなものを、富山市から発信できたらと思っています。

この連載では、富山で活躍するさまざまな方の「アメイジング（驚くほど素敵）な富山」について掲載します。また、WEBサイトでは皆さんのアメイジングなエピソードも募集しています。
▶ 詳細は、「アメイジング トヤマ」で検索してください。



▲WEBサイト

貫場幸英（ぬきばゆきひで）さん
富山市出身。アートのスペース「VEGA」代表、「LIVING ART IN TOYAMA」総合プロデューサー、企業コンサルタントとして多岐にわたり活躍。